

わくわく古代チャレンジ2018

とっておき埋文講座②

はじめに

当センターでは、毎年夏休みの期間に合わせて「わくわく古代チャレンジ事業」を実施しています。

「わくわく古代チャレンジ事業」は事前応募を必要とする「ふるさと考古学教室」「こども考古学クラブ」と、当センターホールと会議室で随時学習できる「まいぶん研究室」があります。どの活動も埋蔵文化財に関する体験活動や学習をとおり、古代に生きた先人のくらしや知恵にふれ、考古学や文化財への関心を高めたり、夏休みの自由研究のサポートを行ったりするものです。

以下、今年度の取組について紹介します。

ふるさと考古学教室

7月26日(木)～8月9日(木)の11日間に全7教室、21コースで行いました。内容は「大型まが玉づくりを体験しよう(滑石大型まが玉づくり)」「縄文の文様で飾ろう(縄文小物入れ・縄文プレートづくり)」「古代アジロ・アングイン編みを体験しよう(コースター・タペストリーづくり)」「刀鍛冶を体験しよう(ペーパーナイフづくり)」「ガラスの装飾品を作ろう(ガラス玉づくり)」「古代の鏡の鋳造を体験しよう(錫鏡づくり)」「藍染を体験しよう(藍染エコバッグづくり)」です。

応募に関しては、昨年度との変更点として、1家族当たりの応募数の限定、インターネットでの応募中止にも関わらず、今年度は、各教室の募集合計定員310組に対し、のべ516組の応募がありました。中でも昨年度から実施している「刀鍛冶を体験しよう」の教室では4倍近くになるコースがあり、人気の体験となっています。

	楽しかった	勉強になった	難しかった	期待外れだった
大型まが玉	85%	41%	22%	0%
縄文小物入れ	88%	38%	12%	0%
アジロ・アングイン	92%	54%	21%	0%
刀鍛冶	95%	61%	37%	0%
ガラス玉	88%	43%	21%	0%
錫鏡	89%	39%	28%	0%
藍染	85%	44%	6%	0%
※複数回答可				

(ふるさと考古学教室アンケートより)

体験者のアンケートから

教室終了後に回収したアンケートでは上記の回答を得ました。全ての教室で「楽しかった」が85%を超え、「期待外れだった」は0%でした。教室に参加した御家族が十分満足したことが伺えます。特に「刀鍛冶を体験しよう」の教室では、「楽しかった」「勉強になった」「難しかった」が最高の割合になり、教室での体験は難しいけれど、難しい分だけ、楽しさと学習に繋がる歯応えのある教室と言えるでしょう。

各教室の感想を紹介します。

○大型まが玉



- ・大人も知らない事があり、体験のみならず、話も大変面白かったです。来た甲斐がありました♪
- ・やりがいがあって、とても楽しく、時間があっという間に過ぎました。また、体験したいです!

○縄文小物入れ



- ・子供も親も大変楽しむことができました。また参加したいです。
- ・ただ作るだけでなく、縄文時代の説明をしてくださったので、歴史のイメージをしながら楽しく参加できました。

○アジロ・アングイン



- ・大人の方が夢中になってしまいました。
- ・担当の先生が優しく教えてくださり、子供も楽しく学ぶことができました。

○刀鍛冶



- ・親子で取り組めること、少し難しいことで、達成感があり、とても楽しかったです!
- ・難しかったけれど、とてもいい体験になった。先生たちがとても親切で、説明も分かりやすかった。

○ガラス玉



- ・とても楽しく体験でき、時間が短く感じました。(多数)
- ・旧石器時代からガラスがあったこと等、最初の展示の解説でもっと興味をもてました。

○錫鏡



- ・本格的な鋳造なのに、手軽な手順で体験でき、とても面白かったです。
- ・スタッフの先生方がとても感じが良く、親子共々楽しく体験できました。

○藍染



- ・楽しく藍のことを知ることができて、かわいいバッグが出来上がりました。
- ・1つ目の作品を生かして、2つ目の作品を作るというのが良く、どんな模様になるか考えて取り組むことができました。

アンケートには多くの意見が寄せられました。肯定的な意見が多く、どれも充実した教室であったことが伺えました。

こども考古学クラブ

今年度のこども考古学クラブは「目指せ未来の考古学者!!」のキャッチフレーズのもと、小学校6年生限定で募集しました。より歴史について学習したいという意欲をもった児童7名が参加し、8月18・20・21日の3日間昼食持参で午前は歴史についての学習、午後は「土器の復元」「土器の拓本」「土器の実測」の体験を行いました。

午後の体験は考古学を専攻しないといけない体験で、子供たちは興味深く体験に取り組んでいました。



まいぶん研究室

当センターホールと会議室を利用して子供たちの自由研究の手立てとなるような研究室を設置しました。

内容は市町村・校区別の遺跡地図と「タッチ・ザ・DOKI」を連携させて調べられるようにすること、



県内施設の下にあった遺跡を紹介すること、



土器の実測に用いる道具に触れること等です。研究室の中に入るときは白衣を着ることもでき、考古学者になりきって遺跡地図を見ている子供の姿がありました。



終わりに

2020年度から小学校の新指導要領が全面実施されます。その改訂のポイントに「体験活動の重視」「県内の主な文化財と年中行事の理解」が挙げられています。当センターがその一翼を担えるように、今後も歴史や考古学に興味をもてるような体験や講座を企画運営していきたいと考えています。

(橘 泰弘)